

令和4年6月22日(水) 主催：総務省関東総合通信局／一般社団法人日本コミュニティ放送協会関東地区協議会
関東放送シンポジウム「ラジオによる地域社会への貢献」

学術的視座から再考するラジオへの期待

コミュニティ放送の30年を振り返る

大正大学社会共生学部公共政策学科
教授 北郷裕美(きたごう・ひろみ)

自己紹介

- 1958年2月21日 旭川市生まれ 性別 ♂
- 大学在学中 S T V ラジオ（札幌市）の A D 職（1年）
- 1983年、リクルート（東京）入社
- その後メディア関連企業数社を経験して1999年8月 札幌に戻る
- 2000年4月～2003年3月 三角山放送局（札幌市西区）にて広告営業、番組企画
- 2005年よりパーソナリティ（月1回 2時間番組）
- 2004年 札幌学院大学地域社会マネジメント研究センター 研究員
- 国際広報メディア学博士（北海道大学大学院 国際広報メディア研究科）
- 2012年 札幌大谷大学社会学部 准教授
- 2016年より 大正大学（地域創生学部→社会共生学部）
- 専門分野はコミュニティメディア論、マス・メディア論
- NPO法人放送批評懇談会 ギャラクシー賞ラジオ部門選考委員

コミュニティ放送局 営業時代

- コミュニティFMってなんなの？
- 当時は全国で130局くらい (❌)
- ぜんぜん聴こえない
- CMの費用対効果は？
- 赤字続き . . .
- お給料 . . .



研究者として

- コミュニティFM放送の存在意義
- 市民参加型
- 周知の必要性を実感（社会的企業として）
- 当事者と第三者の違い
- 北海道内のコミュニティFM調査
- 優秀な研究者仲間の存在
- 各地各局を廻る
- 総合通信局 JCBA
- 論文・講演・講義・執筆（力不足）



コミュニティ放送 課題の変遷

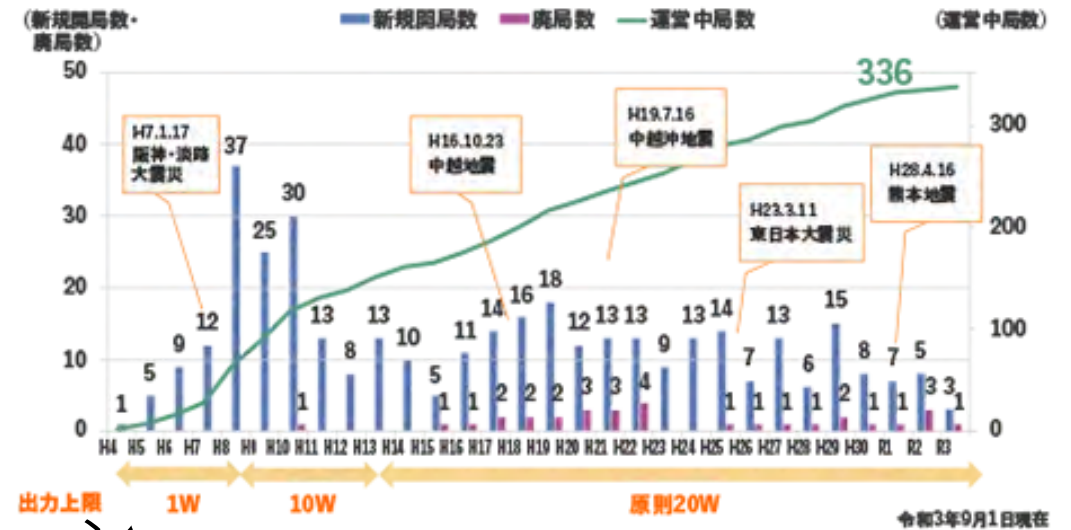
- 黎明期1992～停滞期200？ 零細メディア企業として
- マンパワー コンテンツ（クオリティ批判）
- 音楽著作権 デジタル
- 2011災害時のメディアとしての評価
- インターネット（サイマル放送 SNS）
- 世代交代 経営課題 雇用問題
- 閉局（停波、免許返上、休眠、廃業、合併、経営移譲等々）
- 多様な業種・業態の参加（株）（有）3セク、NPO、一財、一社、社福、学法…



災害時メディアとしての立ち位置

コミュニティ放送局の局数推移参考

- 阪神・淡路大震災 1995
- 東日本大震災 2011
- 被災地の放送局
- 臨時災害放送局 (※)
- 情報を繋ぐ 人を繋ぐ 心を繋ぐ
- インフォメーションとコミュニケーション
- ラジオという電波媒体の強さ
- 緊急時・災害時 (emergency radio) → 復旧 (recovery radio) → 復興 (rehabilitation radio) へ
- 平時に聴き続けることで、初めて災害時に役に立つ





行政・自治体に期待すること

- 行政は何もしてくれない？そんなことはない！！
- 金銭的なサポート（出資 広報番組スポンサー 催事の協力）
- 物理的なサポート（公設民営ほか）
- **広報としてのサポート（行政のお墨付き）**
- 災害時における協働（同じ地域の住民として）
- 地域ごとのまちづくり補助金・支援制度

新たなフェイズに向かう

- 広域連携 産学官連携
- 様々なネットワーク（局同士 マスメディア 近隣の団体、
企業 施設 組織 学校）
- 神奈川エフエムネットワーク
- ネットの活用（スマホでラジオ）

一連の動きの中で重要なのは

- ラジオというメディアツールは「まちづくり」「地域社会づくり」
の手段であること 放送が目的ではない？
- 放送局はそのためのプラットフォームとしての組織であること
- このことを送り手、受け手の双方が認識する

ラジオによる地域社会への貢献

- 「災害時の役割」や「地域活性化」などの観点から、改めて、デジタル時代における「ラジオの存在意義」を見つめ直す機会として、このあと4つの事例報告をご視聴ください

ご清聴
ありがとうございました

